

(別紙様式)

(A3判横)

令和4年度学校自己評価システムシート (県立大宮光陵高等学校)

目指す学校像	校訓「自立、協調、創造」の理念のもと、確かな学力と専門的な能力を身に着け、情操豊かで、自主的・創造的な精神を持つ人間を育てる。
--------	---

重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善 2 向上心をもって進路希望の実現を図らせる指導の推進 3 特色豊かな教育活動を通じた学びにむかう力の育成 4 家庭・地域との積極的情報共有による信頼関係の構築
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者		
学校関係者	5名	
生徒	3名	
事務局(教職員)	11名	

学校自己評価						
年度目標				年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	(現状) 授業アンケートではある程度の満足度は示されていた。さらに積極的な回答を増やすよう、明確な目標をもって学習させる必要がある。 (課題) 観点別評価導入にあたり「何を」目標とし、「何を」評価するのか明示し、生徒が目標に向かって、意欲的に学習し学力を向上させるようにすることが課題となる。	各教科で教科・科目の目標に即した授業の展開、評価基準を明確にし、学校全体で共有することで、授業改善を組織的に行う。	①目標に即した評価基準を示して評価し、生徒の学習意欲を伸長させ、学力向上につなげる。 ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を展開する。	①授業アンケートでの授業満足度が昨年度より向上したか。 ①成績優良者が増え、欠点保有者が減ったか。 ②生徒が自分で考え表現することを授業で感じることができたか。	○委員会を中心に評価基準の研究、課題等の共有を行い、取り組んだ。相互授業観察により、授業改善を図った。 ①生徒アンケートでは、目標達成度 52.8% (昨年度+8.5)、保護者の満足度は 40.9% (昨年度+5.6)。ふた学年の同生徒の昨年度比較について、成績優良者は1学期 116⇒139人、2学期 126⇒104人。欠点保有者は、1学期 46⇒41人、2学期 61⇒50人であった。 ②生徒アンケートでは、42.2% (昨年度+10.3)の生徒が授業では自分で考え表現したと回答。	A
2	(現状) 進路情報提供や相談体制に対する満足度は漸増傾向であった。生徒が主体的に進路について考え、将来を見据えた進路選択することが望まれる。 (課題) 一人一人が将来を見据えた進路選択をし、進路実現できるような進路指導体制と環境を整える。	生徒に将来を見据えた進路選択をさせ、進路実現できるような進路情報の提供や環境を整える。	①進路行事を一層充実させ、必要な進路情報を保護者・生徒に適切に提供する。 ②進学補講の充実と学習習慣の充実を図る。	①学校評価アンケートにより、進路情報の提供や相談等での満足度が向上したか。 ①昨年度より生徒の希望する進学補講が充実したか。 ②生徒の進路希望が実現できたか。	○進路行事の見直しを図り、また校内における学習環境や進路指導室の整備を行い、指導体制を整えた。 ①学校評価アンケートでは、進路情報の提供や相談等が適切と答えた生徒は 58.9% (昨年度+3.6%)と増加。進学補講はコロナ禍以前と比較すると受講者の減少がみられるが、夏季休業中の補講は21講座を実施。 ②進路決定者数(大学・短大 225人、就職 4人 1/13現在)	A
3	(現状) 高いレベルの芸術活動や国際交流、外国語コースの取組などを特色とし、落ち着いた雰囲気の中で教育活動が行われている。 (課題) 4学科1コースの特色を生かし、相互の情報共有や交流を深め、学校としての一体感を持てるよう学びの意欲につなげる。	大宮光陵高校としての一体感を醸成し、様々な教育活動とおして学校生活に充実感を持たせ、個々の生徒の学びの意欲を高める。	①各部活動の活動状況や成果、学科・コースの校内外の発表・展覧会等の情報を共有し、組織的に生徒の意欲を高める。 ②様々な状況を踏まえ、制限がある場合でも生徒が主体的に諸行事を運営する体制を整える。	①部活動の活動状況や成果、学科・コースの校内外の発表・展覧会等の情報提供が適切に行われ、各種大会やコンクールで優秀な成績を修めることができたか。 ②生徒主体に諸行事が運営できると共に満足できたか。	○コロナ禍で制約がある中、感染防止対策を徹底し、学校行事等をほぼ通常どおり実施できた。 ①複数の部活動が関東大会、全国大会出場。文化部では全国総文祭に出品するなど、好成績を修めた。 ②生徒主体で文化祭を企画運営し、2年ぶりに一般公開を2日間実施した。また、学校評価アンケートでは、学校生活が充実していると68.7%の生徒が回答。	A
4	(現状) 学校からの情報提供については一定の評価・信頼は得られているが、コロナ対策もあり、地域との交流については実施できていない行事もある。 (課題) 本校の教育活動や実践とその成果を積極的に発信し、家庭・地域と情報共有しながら更なる信頼を得る。	HPやメールなどで確実な情報を提供するとともに、説明会や交流事業などで本校の特色ある教育活動の情報を発信する。	①学校説明会や行事、発表会や展示会の情報を適時に的確に発信する。 ②本校の特色を生かした地域との交流を徐々に再開する。 ③中学生とその保護者、中学校等の関係者に本校の情報を適時に提供する。	①情報提供に対する保護者の満足度が向上したか。また、HPへのアクセス数は増加したか。 ②地域との交流が推進でき、関係者の満足度を高められたか。 ③説明会等の参加者数、本校志願者数は増加したか。	○コロナ禍で様々な対策を行い、学校説明会、出前授業、地域交流等を実施した ①保護者アンケートでは、学校と保護者の連携について、良好との回答が29.7% (昨年度より微増)。 ②部活動、有志生徒がボランティア活動、各公共団体から依頼された催し物等に参加、発表し大変好評であった。 ③説明会、体験授業等は予定どおり実施。中3の本校への進学希望者数は、ほぼ全て増加(昨年度比較 1.16⇒1.26(普) 0.83⇒0.88(外)、1.15⇒2.03(美) 0.53⇒1.00(音) 0.55⇒0.55(書) 12/15現在)。	A

学校関係者評価	実施日 令和5年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	・1年生から導入された観点別評価については、義務教育ではすでに実施されているので、保護者はそれなりに認知している。ぜひ、生徒の学習意欲を引き出すように取り組んで欲しい。 ・小中学校では、若い教員が進んでタブレット端末を活用している。これから益々活用が進んでいくと予想されるが、社会に出て何が必要になるかを考慮し、有効な活用を望む。 ・進路講演会等の実施で保護者同士での情報交換や進路についての悩み等が共感でき、大変有意義であった。様々な入試の時期や制度が変わる中、進路行事の見直しや指導について取り組んでいる様子が伺える。 ・普段の生徒たちの登下校の様子もしっかりしており、部活動の活躍をみて、充実した学校生活を送っていると感じる。 ・感染防止対策で実施できなかった行事等については前年度踏襲でないからこそ、新たな試みや見直しがあったのではないかと感じる。ピンチをチャンスに変えて活動してきたと感じる。 ・文化祭を拝見し、生徒の企画や校内に展示してある作品を見て、互いに刺激を与えながら高校生活をすごしていると感じられた。 ・地域からの様々な要望に対応し、貢献できていると思う。コロナの収束を信じ、来年度はコロナ禍前に実施していた小高交流事業の復活を望む。